

平成29年度 事務事業評価表

9164  
一般会計

事務事業名	観光促進支援事業			
事務事業担当	部 名	課 名	担当名	責任者
	文化スポーツ部	イベント観光課	イベント観光担当	大紺 和由

1. 位置づけ・事務事業の期間

総合計画体系	基本目標	社会の健康・市民の活力があふれるまち		
	個別目標	にぎわいのある地域をつくる		
	めざす成果	「大和」に多くの人を訪れている		
根拠法令	名 称			
当該事業の法令等による義務付けの有無		無		
事務事業の期間	事業開始年度	事業終了（予定）年度	事業期間	
	平成3年度		設定無し	

2. 事務事業の概要

対 象	総事業費	(単位：千円)		
市民、市外からの来訪者		28年度（決算額）	29年度（決算額）	30年度（予算額）
	事業費	5,112	4,109	11,147
	人件費	11,351	11,251	14,396
目 的	総事業費	16,463	15,360	25,543
市民に活力を与えるとともに、まちに活気と賑わいを生み出します。	30年度事業費（予算額）財源内訳			
		国支出金		0
		県支出金		0
		市債		0
		その他		8
		一般財源		11,139
		合 計		11,147
手段、手法【実施手法：直営】				
<ul style="list-style-type: none"> <li>市内で行われる観光イベントの主権者に対して、観光促進事業等補助金を交付します。</li> <li>各観光イベントを主催する実行委員会への参画や開催当日の協力、イベントを広報やまよ市ホームページで紹介するなど、事業の運営に対し支援を行います。</li> </ul>				

3. 活動内容

活動指標 1	名称	実行委員会等出席回数			単位	回
	内容説明	市職員が実行委員会等準備会に出席した回数				
	指標値		28年度	29年度（当該年度）	30年度	
		予 定	31	35	35	
	実 績	35	36	---		
活動指標 2	名称	補助金交付件数			単位	件
	内容説明	補助金を交付した件数				
	指標値		28年度	29年度（当該年度）	30年度	
		予 定	4	4	4	
	実 績	4	4	---		
活動指標 3	名称				単位	
	内容説明					
	指標値		28年度	29年度（当該年度）	30年度	
		予 定				
	実 績			---		
活動指標 4	名称				単位	
	内容説明					
	指標値		28年度	29年度（当該年度）	30年度	
		予 定				
	実 績			---		
課 題	各観光イベントを主催する実行委員会は、メンバーの高齢化や人材不足などの課題が進行しており、この対応策を講じる必要があります。					

4. 今後の方針等

今後の方針等	27年度	I：現状のまま継続	28年度	I：現状のまま継続	29年度	II：見直しのうえで継続
	今後も、観光イベントが円滑に開催できるよう、運営支援を行っていきます。また、電子媒体での情報発信を充実していくためにSNSの活用について検討していきます。 【「健康都市 やまと」まち・ひと・しごと創生総合戦略関連事業】					

5. 評価結果				
市の関与の妥当性	評価結果			市が関与する必要性があるか。
	27年度	28年度	29年度	A : 市が関与する必要性が高い。
	A	A	A	本事業は、市民や商店会などが企画・実施する観光イベントに対して適切な支援をしていくものです。市民の活力の向上、まちの活気と賑わいの創出のために、今後も継続的に市が関与する必要があります。
事務事業の成果	評価結果			さらに成果を上げるにはどうしたらよいか。
	27年度	28年度	29年度	B : 成果を上げる余地が一部ある。
	B	B	B	現在、観光イベントの情報発信は、広報やまよホームページ等で行っていますが、SNSをはじめ多様な媒体を活用した情報発信に取り組むことで、さらに事業の成果を高めることができると考えます。
事業費・人件費	評価結果			事業費、人件費は適正か。
	27年度	28年度	29年度	A : 経費は適正な水準である。
	A	A	A	主な事業費は、各観光イベントの実行委員会に対する補助金であり、その交付額については、実行委員会からの予算案を精査したうえで決定しています。人件費は、主に実行委員会の運営支援に係る経費であり、その額は適正な水準であると考えます。
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	27年度	28年度	29年度	A : 受益・負担は適正である。
	A	A	A	本事業で支援する観光イベントは、全市民を対象とした無料のものであり、受益・負担の公平性は保たれていると考えます。
社会的配慮	評価結果			市民参加、情報提供、ユニバーサルデザインへの対応、環境負担軽減に向けた取り組み4点について十分に行ったか。
	27年度	28年度	29年度	A : 社会的配慮を十分に行っている。
	A	A	A	広報やまよなどの市広報媒体やメディアを活用して、市民及び市外の人たちに積極的に情報提供を行いました。また、イベント当日は、開催地域の住民に運営のサポートをお願いし、協力いただきました。

平成29年度 事務事業評価表

9165  
一般会計

事務事業名	イベント観光協会支援事業			
事務事業担当	部 名	課 名	担当名	責任者
	文化スポーツ部	イベント観光課	イベント観光担当	大紺 和由

<b>1. 位置づけ・事務事業の期間</b>				
総合計画体系	基本目標	社会の健康・市民の活力があふれるまち		
	個別目標	にぎわいのある地域をつくる		
	めざす成果	「大和」に多くの人を訪れている		
根拠法令	名 称			
	当該事業の法令等による義務付けの有無 無			
事務事業の期間	事業開始年度	事業終了（予定）年度	事業期間	
	平成13年度		設定無し	

<b>2. 事務事業の概要</b>					
対 象	大和市イベント観光協会				
目 的	総事業費	(単位：千円)			
		28年度（決算額）	29年度（決算額）	30年度（予算額）	
	事業費	19,393	16,604	19,120	
	人件費	15,624	15,475	15,475	
	総事業費	35,017	32,079	34,595	
手段、手法【実施手法：直営】	30年度事業費（予算額）財源内訳				
	国支出金			0	
	県支出金			0	
	市債			0	
	その他			0	
一般財源			19,120		
合 計			19,120		
成 果（効果・予測）	30年度事業費（予算額）財源内訳				
	国支出金			0	
	県支出金			0	
	市債			0	
	その他			0	
一般財源			19,120		
合 計			19,120		
<b>3. 活動内容</b>					
活動指標 1	名称	補助金交付回数		単位	回
	内容説明	一年間に補助金を交付した回数			
	指標値		28年度	29年度（当該年度）	30年度
		予 定	1	1	1
	実 績	1	1	---	
活動指標 2	名称	定期監査、理事会、総会		単位	回
	内容説明	定期監査、理事会、総会に出席した回数			
	指標値		28年度	29年度（当該年度）	30年度
		予 定	3	3	3
	実 績	3	3	---	
活動指標 3	名称			単位	
	内容説明				
	指標値		28年度	29年度（当該年度）	30年度
		予 定			
	実 績			---	
活動指標 4	名称			単位	
	内容説明				
	指標値		28年度	29年度（当該年度）	30年度
		予 定			
	実 績			---	
課 題	イベント観光協会は少数の職員で事業を実施していることから、業務の内容とボリュームを常に把握していく必要があります。				

<b>4. 今後の方針等</b>						
今後の方針等	27年度	I：現状のまま継続	28年度	I：現状のまま継続	29年度	II：見直しのうえで継続
	大和市イベント観光協会が安定的に運営できるよう、引き続き、運営や事業に対する支援を行ってまいります。これに加え、協会と連携して、フィルムコミッションを活用したシティプロモーション活動の充実に取り組みます。 【「健康都市 やまと」まち・ひと・しごと創生総合戦略関連事業】					

5. 評価結果				
市の関与の妥当性	評価結果			市が関与する必要性があるか。
	27年度	28年度	29年度	A : 市が関与する必要性が高い。
	A	A	A	イベント観光協会は、本市の観光事業の振興と発展を目的に、市がその設立から関わってきた団体であるため、一定の関与の必要性はあると考えます。
事務事業の成果	評価結果			さらに成果を上げるにはどうしたらよいか。
	27年度	28年度	29年度	B : 成果を上げる余地が一部ある。
	A	A	B	フィルムコミッションの撮影実績は、他市と比較しても著しく低い水準ではありませんが、ロケ地を活用したプロモーション活動が不足している状況にあります。その活動の充実を図ることでさらに事業の成果を高めることができると考えます。
事業費・人件費	評価結果			事業費、人件費は適正か。
	27年度	28年度	29年度	A : 経費は適正な水準である。
	A	A	A	事業費は、大和市イベント観光協会に対する補助金であり、その交付額については、協会からの予算案を精査したうえで決定しています。人件費は、主にフィルムコミッション事業における庁内調整に係る経費であり、その額は適正な水準であると考えます。
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	27年度	28年度	29年度	A : 受益・負担は適正である。
	A	A	A	本事業で支援する大和市イベント観光協会は、全市民を対象に事業運営していることから、受益・負担の公平性は保たれていると考えます。
社会的配慮	評価結果			市民参加、情報提供、ユニバーサルデザインへの対応、環境負担軽減に向けた取り組み4点について十分に行ったか。
	27年度	28年度	29年度	A : 社会的配慮を十分に行っている。
	A	A	A	大和市イベント観光協会の事業について、広報やまとなどの市広報媒体やメディアを活用して、市民及び市外の人たちに積極的に情報発信の支援を行いました。

平成29年度 事務事業評価表

9166  
一般会計

事務事業名	大和市民まつり支援事業			
事務事業担当	部 名	課 名	担当名	責任者
	文化スポーツ部	イベント観光課	イベント観光担当	大紺 和由

1. 位置づけ・事務事業の期間				
総合計画体系	基本目標	社会の健康・市民の活力があふれるまち		
	個別目標	にぎわいのある地域をつくる		
	めざす成果	「大和」に多くの人を訪れている		
根拠法令	名 称			
当該事業の法令等による義務付けの有無		無		
事務事業の期間	事業開始年度	事業終了（予定）年度		事業期間
	昭和53年度			設定無し

2. 事務事業の概要					
対 象	大和市民まつり実行委員会				
目 的	総事業費	(単位：千円)			
		28年度（決算額）	29年度（決算額）	30年度（予算額）	
	事業費	11,500	11,500	11,500	
	人件費	8,928	8,843	8,843	
総事業費	20,428	20,343	20,343		
手段、手法【実施手法：直営】	30年度事業費（予算額）財源内訳				
	国支出金	0			
	県支出金	0			
	市債	0			
	その他	0			
	一般財源	11,500			
		合 計	11,500		
・大和市民まつり実行委員会に対して、補助金を交付します。					
・同実行委員会の総括事務局として、まつり全体の運営を支援します。					
3. 活動内容					
活動指標 1	名称	実行委員会・部会等開催回数		単位	回
	内容説明	役員会、実行委員会、6部会の開催回数			
	指標値		28年度	29年度（当該年度）	30年度
		予 定	34	26	24
		実 績	26	27	---
活動指標 2	名称	イベント実施日数		単位	日
	内容説明	イベントの実施日数			
	指標値		28年度	29年度（当該年度）	30年度
		予 定	2	2	2
		実 績	2	2	---
活動指標 3	名称	出店数		単位	店
	内容説明	市民まつりに参加した市民団体等の出店数			
	指標値		28年度	29年度（当該年度）	30年度
		予 定	350	350	360
		実 績	341	346	---
活動指標 4	名称			単位	
	内容説明				
	指標値		28年度	29年度（当該年度）	30年度
		予 定			
		実 績			---
課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・従前からの協賛企業、団体が協賛金を減額したり、いただくことができなくなったりするケースもあるため運営費の確保について、常に検討していく必要があります。</li> <li>・まつりの開催にあたり、近隣住民の理解を得るために、きめ細やかな対応が必要となっています。</li> </ul>				

4. 今後の方針等						
今後の方針等	27年度	Ⅱ：見直しのうえで継続	28年度	Ⅰ：現状のまま継続	29年度	Ⅱ：見直しのうえで継続
	今後も、市民まつりが円滑に開催できるよう、実行委員会の運営支援を継続していきます。また、まつりをより魅力的なものとするために、随時、企画内容の見直しを進めていきます。					

5. 評価結果				
市の関与の妥当性	評価結果			市が関与する必要性があるか。
	27年度	28年度	29年度	A : 市が関与する必要性が高い。
	A	A	A	本事業は、市が市内団体、企業とともに運営する、市内最大級の観光イベントに対して、適切な支援をしていくものです。市民まつりは「心と心のふれあうふるさとづくり」、「愛着ある地域づくり」を目的に開催しており、社会の健康の推進に大きく寄与するものであることから、今後も継続的に市が関与する必要があります。
事務事業の成果	評価結果			さらに成果を上げるにはどうしたらよいか。
	27年度	28年度	29年度	B : 成果を上げる余地が一部ある。
	B	B	B	近年、開催内容の固定化傾向がみられることから、魅力的な企画やより多くの市民が参加できる仕掛けを実施することで、さらに事業の成果を高めることができると考えます。
事業費・人件費	評価結果			事業費、人件費は適正か。
	27年度	28年度	29年度	A : 経費は適正な水準である。
	A	A	A	事業費は、市民まつり実行委員会に対する補助金であり、その交付額については、実行委員会からの予算案を精査したうえで決定しています。人件費は、市が担う総括事務局としての業務に要するものとして適正な水準であると考えます。
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	27年度	28年度	29年度	A : 受益・負担は適正である。
	A	A	A	本事業で支援する大和市民まつりは、全市民を対象とした無料のものであり、受益・負担の公平性は保たれていると考えます。
社会的配慮	評価結果			市民参加、情報提供、ユニバーサルデザインへの対応、環境負担軽減に向けた取り組み4点について十分に行ったか。
	27年度	28年度	29年度	A : 社会的配慮を十分に行っている。
	A	A	A	広報やまなどの市広報媒体やメディアを活用して、市民及び市外の人たちに積極的に情報提供しました。また、イベント開催当日は、環境負担軽減のために、ごみの分別を徹底しました。